

## 29<sup>th</sup> Annual Meeting of Wound Healing Society (サンディエゴ) に参加して

東邦大学大学院医学研究科先端医科学研究センター  
組織修復・病態制御学研究室 赤坂 喜清

今年のWound Healing Society (WHS) meetingは4月5日から9日までアメリカ西海岸に位置するサンディエゴで開催された。サンディエゴはウエストコースト特有の快適な気候から人口が急増しており、最近カリフォルニア州でロサンゼルスに次ぐ2番目の人口からなる活気に満ちた都市である。メキシコ国境が近く、メキシコ人や中南米の人々が集う多国籍の雰囲気が強く、日本人の私が歩いても疎外感がなかった。治安が大変良く親切心に溢れており、紙幣不足で乗車できない観光客に市民が不足分を差し出した場面には大変驚いた。

学会は初日から特別講演やシンポが目白押しであり、どれも聞き応えのある発表だった。創傷治癒学が複合的研究領域の包括的な学問であることから、今回は米国の炎症、免疫、再生など第一線の研究者が、それぞれの領域から創傷治癒の正常メカニズムや疾患の病態解明にアプローチしていた。印象的だったのはStanfordの免疫学者Paul Bollyky氏がLangerhans細胞による表皮再生のメカニズムを、またUCLAの神経学者 Alvaro Sagasti 氏がデジタルイメージングを駆使した損傷皮膚の神経再生の解析結果は大変興味深かった。かつてのサイトカイン同定による創傷治癒学のめざましい進歩は過去のものとなり、多彩なアプローチから新たな創傷治癒学のブレイクスルーを模索している印象を受けた。

学会で知り合ったある米国の先生から、最近の米国の創傷治癒は研究資金の獲得が大変困難で、高騰する学会参加費や宿泊費から毎年の本学会参加が難しくなってきたと嘆いていた。WHS Presidentの Laura Parnell先生も、米国における近年の厳しい研究環境変化による創傷治癒研究者の減少を嘆いていた。この現況打破のため、Wound Healing Foundation (WHF)を立ち上げ、広範な社会的啓蒙を通じてWHSの認知度や重要性を高め、創傷治癒の研究者の研究環境の改善に着手しているようである。日本でも同様な状

況は否定できず、この理念に私個人的にも強く賛同することをParnell先生に伝え、来年のWHS meetingでの再会を誓って帰国の途に着いた。



左上:招待 Dinner Cruise にて(左から筆者、Laura Parnell 先生 (WHS President)と田中里佳先生(WHF委員、順天堂大形成外科)) / 左下: 学会場San Diego Convention Center / 右上: ポスター会場 / 右下: 学会場に隣接する高級リゾート地 コロナド海岸



# NEWS LETTER

## 日本創傷治癒学会 2017.5 No.99

### ●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail: info@jswh.com

URL : <http://www.jswh.com>

## WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文がWound Repair and RegenerationのVolume25 Issue No.1に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの右側にあるナビゲーションバーより、<JOURNAL MENU> ⇒ <FOR CONTRIBUTORS> ⇒ <Author Guidelines>をクリックいただくか、以下のURL先を直接検索窓にコピー&ペーストして入手ください。

[http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/\(ISSN\)1524-475X/homepage/ForAuthors.html](http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/(ISSN)1524-475X/homepage/ForAuthors.html)

なお、投稿方法については、円滑な審査を行うために、2004年度よりオンライン投稿を推奨しております。

**“Biofilm detection by wound blotting can predict slough development in pressure ulcers: A prospective observational study”, (Wound Repair and Regeneration, 25:1, P.131 - 138)**

- 仲上 豪二郎 先生 (東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野)  
北村 言 先生 (東京大学大学院医学系研究科 老年看護学分野)  
峰松 健夫 先生 (東京大学大学院医学系研究科 創傷看護学分野)  
須釜 淳子 先生 (金沢大学医薬保健研究域 保健学系臨床実践看護学講座)  
真田 弘美 先生 (東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学分野)

## 漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

(2017年2月制作) PPCAB02-K